

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会	主 査 名：石橋 達勇 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：清家 剛 主 査 名：日色 真帆
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ノーマライゼーションの伸展に加え、近年は外国人居住者の増加や LGBT 当事者が社会的に話題になるなど、わが国は多様な人々が共生する社会となっている。しかし、この様な人々による具体的な各種建築空間における行為の実施や場面における具体的な要件の知見の蓄積は、未だ不十分と考える。本小委員会では、上記の多様な特性を持つユーザーによる動作レベルの細かい動きではない行為や場面と建築・設備との関わりを諸施設事例から収集し整理体系化を図ることで、改めて両者の根源的な関係性を検討することを目的とする。</p> <p>初年度：委員が作業班に分かれて障害者・高齢者・子ども・患者・社会的弱者の諸行為の理解とそれに対応する建築空間・設備事例の情報収集・整理を行い、小委員会にて共有し、その結果を踏まえて作業班毎に公開研究会を企画・実施する。なお、公開研究会はビデオ通話システムを利用して、2 回程度行う。</p> <p>2 年度：前年度の成果を踏まえ、担当委員が中心となり公開研究会を 2 回程度実施する。また随時、各作業班での作業の継続と共に小委員会内での情報の整理・共有化も行う。そして上記情報の蓄積の進捗情報を踏まえ、成果として書籍刊行の可能性の検討も行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：石橋達勇 (北海学園大学) 幹事：田中賢 (日本大学)、室崎千重 (奈良女子大学) 委員：植田瑞昌 (日本女子大学)、加藤悠介 (金城学院大学)、小菅瑠香 (芝浦工業大学)、鈴木義弘 (大分大学)、仲綾子 (東洋大学)、西岡基夫 (大阪公立大学)、西野亜希子 (コ・ラボ)、藤井里咲 (東京電機大学)、松田雄二 (東京大学)、松原茂樹 (大阪大学)、柳瀬亮太 (信州大学)、平井百香 (東北大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2023 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 公開研究会「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・癒すためのインクルーシブデザインを考えるーシェルターインクルーシブプレイス コパルの計画プロセスから学ぶー」 <div style="text-align: right;">参加者数 30 名</div> 2. 公開研究会「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・癒すためのインクルーシブデザインを考えるーユニバーサル・ミュージアムの建築空間を考えるー」 <div style="text-align: right;">参加者数 22 名</div>
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標にある公開研究会を対面方式で2回実施することができた。また現地施設見学や催事参加を内容に加えたことで、詳細かつ現実的な現状の理解や問題の把握に貢献できたと考える 2. コロナ禍による委員会活動の停滞もあり、書籍刊行ができるほどの知見の蓄積には至らなかった。次期委員会にて可能性の検討を継続されることを希望する
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開研究会にて現地施設見学や催事参加を内容に加えた結果、参加者人数が想定より少ない、現地会場借り上げのための支出が増大した、などの問題が発生した 2. 企画立案に際して活動内容が類似する学会（日本福祉のまちづくり学会）における催事内容の確認・調整が必要となった 3. 今年度ではないが公開研究会に登壇予定者が開催間近に登壇不可の連絡を受けた経験があった。状況によっては登壇予定者の所属先から登壇承諾書などの信証を得るなどの対策を行う必要がある